

「防災推進国民大会2021」の開催報告

～震災から10年～ つながりが創る復興と防災力

内閣府（防災担当）普及啓発・連携担当

1 防災推進国民大会 (通称「ぼうさいこくたい」)とは

国民の防災意識向上のため、防災に関する活動を実践する多様な団体・機関が一同に会し、取組・知見を発信・共有する場です。今回は東日本大震災から10年の節目を迎えることもあり、被災地の一つ岩手県釜石市で令和3年11月6日、7日に開催しました。

ぼうさいこくたいは、2015年の「仙台防災枠組2015－2030」の採択を受け、国民の更なる防災意識向上を図るべく、各界各層の有識者から成る「防災推進国民会議」が設立され、防災推進協議会、



屋内会場の受付



屋外展示会場の受付

内閣府とともに、2016年に第1回を開催したのが始まりです。

今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況も踏まえ、現地開催とオンラインを組み合わせた形式で実施し、2日間で約5,800人の来場者及び約10,800回のオンライン試聴がありました。また、「いわて・かまいし防災復興フェスタ(岩手県主催)」も併催しました。

2 内閣府主催イベント

(1) オープニング&オープニングディスカッション

オープニングでは、主催者を代表して二之湯智内閣府防災担当大臣及び大塚義治日本赤十字社社長（防災推進国民会議議長、防災推進協議会会長）が挨拶するとともに、開催地代表として達増拓也岩手県知事及び野田武則釜石市長に挨拶いただきました。

また、ディスカッションでは、「東日本大震災の伝承と防災」をテーマとして、「いのちをつなぐ未来館」での取組（次世代を担う子どもたちのための防災学習等）、



オープニングディスカッション

「3.11 伝承ロード」での取組（伝承施設のネットワーク化）、雲仙岳での取組等を通して、教訓から何を学び、どのように次世代に伝えていくのか意見交換を行いました。

（2）ハイレベルセッション

「つながりが創る復興と防災力～東日本大震災の経験から～」をテーマとして、復興と防災力強化を担ってきた内外のリーダーたちをつなぎ、復興、住民の防災意識向上、復興の担い手育成等、「より良い復興」(Build Back Better)に向けたこれまでの経験と未来について語っていただきました。

（3）クロージング（挨拶）

主催者を代表して秋本敏文日本消防協会会長（防災推進国民会議副議長）及び大野敬太郎内閣府副大臣（防災担当）が挨拶を行うとともに、岩手大学の越谷信教授に総括を行っていただきました。

3 主なセッション紹介

今回の大会には、171の出席団体が参加し、のべ187のイベント（セッション、ワークショップ、プレゼンテーション、屋外展示）が行われました。このうちいくつかのセッションを紹介します。

（1）日本消防協会主催「災害廃棄物の処理」

災害廃棄物の処理は、被災地の早期復



日本消防協会セッション

旧復興を進める上でとても重要な課題です。東日本大震災での経験、関係者による討論を通して、災害廃棄物の早期かつ適切な処理の重要性、今後の取組で必要なことなどについて考えました。

（2）全国災害ボランティア支援団体ネット

ワーク (JVOAD) 主催「どこで災害が

起きても支援を届けるコーディネーション」

平成28年の熊本地震を契機に行政、社会福祉協議会（社協）、NPOなどの民間による支援活動の三者連携が進んできました。多様な支援主体との災害支援の連携調整の重要性、「ムラ・モレ」のない被災者への適切な支援などについて考えました。

（3）内閣府男女共同参画局主催

「集まれ！防災女性職員とその応援団」

男女共同参画視点からの災害対応の取組につき、「①防災 x 行政女性職員」「②防災 x 子育て・介護」「③防災 x 男女共同参画 x 福祉」のワークショップを通して、地方公共団体や関係省庁などで防災に関わる女性職員の皆さんが自由に意見交換しました。

4 次回開催のお知らせ

次回の「防災推進国民大会2022」は、令和4年10月22日、23日に兵庫県神戸市で開催します（HAT神戸、ハイブリッド方式）。会場の一つ「人と防災未来センター」は令和4年に開設20年を迎えることもあり、同センターをハブとし新たな交流・知見共有のモデルを全国に提示する機会にしたいと考えています。引き続きご支援を宜しくお願い致します。